

2025 年 6 月 12 日

EMMA がアップグレードすることになり、いままでの EMMA・ALICE を振り返りました

子宮内は無菌状態と思われていましたが、最近の研究により微量ではありますが様々な細菌が存在することがわかり、この子宮内細菌叢という領域が注目されるようになりました。乳酸桿菌は腔内に常在し、エストロゲンの作用により腔内を弱酸性に保つことにより、有害な細菌の侵入や増殖を抑える善玉菌の役割を果たしています。数年前、この乳酸桿菌が子宮内に十分量存在すると妊娠しやすいとする報告がなされ、それ以降乳酸桿菌が子宮内に存在する状態が妊娠にとって望ましいとされるようになりました。一方、子宮内には慢性子宮内膜炎という流産を繰り返す病態の原因となる悪玉菌が存在することもあり、この悪玉菌の検出に関する検査も最近行われています。

EMMA・ALICE は妊娠に重要な子宮内細菌叢の状態を見る検査です。子宮内膜を採取し、善玉菌・悪玉菌の存在の有無や状態の診断をします。当院では 2019 年よりこの検査を開始し、2022 年からは皆さんご存じのように先進医療で行っています。今回、EMMA 検査がアップグレードするにあたり、現在までの当院の EMMA・ALICE 検査を振り返りました。結果を簡単にまとめましたのでご報告いたします。

2019 年から現在までに 79 人の方がこの検査を受けられました。検査を受けられたのは反復して胚移植がうまくいかない方、または流産となる方、などです。79 人のうち 21 人の方になんらかの問題となる細菌が認められ、抗生剤による治療を行っていただきました。また、その後の再検査も 17 人の方に受けていただきました。それらの検査や治療のあとの胚移植により、59 人 ($59/79=74.7\%$) の方が分娩（または妊娠継続中）となっております。この成績から EMMA・ALICE 検査は大変有効性が高いと考えています。

今年 7 月より EMMA2（アップグレード）が開始となります。詳細につきましては、今後報告させていただきます。

院長 菅谷 進